

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる 実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる 実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する 実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く—小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	論理国語	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて，内容の解釈を深める。	・著名な作品に触れ，説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	・作品の思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み，積極的に自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
	A わかる ・文章の種類や古典特有の表現に注意して，展開や内容を的確に捉える。	・我が国の文化の特質や，外国の文化との関係について理解を深める。	・古典の作品や文章を読み，自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。
	B できる ・助詞，助動詞など，文語のきまりへの理解を深める。	・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。	・作品と関係する資料を用い，言葉の使い方や表現を比較し，違いを積極的にまとめようとしている。
	C する ・語句の量を増やし，語彙を豊かにする。	・文語のきまりについて理解を深める。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。
評価方法	授業，ワークシート，小テスト，定期考査	授業，ワークシート，小テスト，定期考査	授業，ワークシート，小テスト，提出物，定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文) 説話，随筆 『古今著聞集』 『沙石集』 『今物語』 (漢文) 故事・寓話，古代の史話 『推敲』 『呉越同舟』 『十八史略』
2 学期	(古文) 物語，日記 『源氏物語』 『大鏡』 『蜻蛉日記』 『更級日記』 (漢文) 史記，漢詩 『史記』 『中国の詩』
3 学期	(古文) 物語，和歌・俳諧 『枕草子』 『万葉集』 『古今和歌集』 (漢文) 名家の文章，不思議な世界 『雑説』 『黔之驢』 『売油翁』 『搜神記』

何で学ぶか(教材)

「精選 古典探究」 (第一学習社) 「体系古典文法」 (数研出版) 「古文単語315」 (桐原書店)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて，内容の解釈を深める。	・著名な作品に触れ，説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	・作品の思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み，積極的に自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
	A わかる ・文章の種類や古典特有の表現に注意して，展開や内容を的確に捉える。	・我が国の文化の特質や，外国の文化との関係について理解を深める。	・古典の作品や文章を読み，自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。
	B できる ・助詞，助動詞など，文語のきまりへの理解を深める。	・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。	・作品と関係する資料を用い，言葉の使い方や表現を比較し，違いを積極的にまとめようとしている。
	C する ・語句の量を増やし，語彙を豊かにする。	・文語のきまりについて理解を深める。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。
評価方法	授業，ワークシート，小テスト，定期考査	授業，ワークシート，小テスト，定期考査	授業，ワークシート，小テスト，提出物，定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文) 説話，随筆 『古今著聞集』 『沙石集』 『今物語』 (漢文) 故事・寓話，古代の史話 『推敲』 『呉越同舟』 『十八史略』
2 学期	(古文) 物語，日記 『源氏物語』 『大鏡』 『蜻蛉日記』 『更級日記』 (漢文) 史記，漢詩 『史記』 『中国の詩』
3 学期	(古文) 物語，和歌・俳諧 『枕草子』 『万葉集』 『古今和歌集』 (漢文) 名家の文章，不思議な世界 『雑説』 『黔之驢』 『売油翁』 『搜神記』

何で学ぶか(教材)

「精選 古典探究」 (第一学習社) 「体系古典文法」 (数研出版) 「古文単語315」 (桐原書店)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	公共	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 志学	
目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会とのかかわりをふまえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成することなどについて考察することができる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	S 使える 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現実社会の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとする事ができる
評価	A わかる 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現実社会の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとする事ができる
基準	B できる 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとする事ができる。
基準	C する 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	現実社会の諸課題に対して、主体的に理解しようとする事ができる。
評価方法	- 授業 - 定期テスト	- 授業 - 定期テスト - 提出物	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 部 公共の扉 第 2 部 第1章 民主政治と私たち 第 2 部 第2章 法の働きと私たち
2 学期	第 2 部 第3章 経済社会で生きる私たち 第 2 部 第4章 私たちの職業生活
3 学期	第 2 部 第5章 国際社会の中で生きる私たち 第 3 部 持続可能な社会づくりに参画するために

何で学ぶか(教材)

公共（東京書籍） 公共準拠ワーク（東京書籍）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，よさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形ができる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法
2 学期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測
3 学期	第3章 数学と社会生活

何で学ぶか(教材)

・NEXT 数学B（数研出版） ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B(数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し，概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，よさを味わうことができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法
2 学期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測
3 学期	第3章 数学と社会生活

何で学ぶか(教材)

- NEXT 数学B（数研出版） - チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B（数研出版） - プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し，概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名	世界史探究		授業時数	週	3 単位
			コース・学年	志学	コース 2 学年
目標	地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。また、諸資料、地理的条件、日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界を考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史探究で学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 人類の歴史と私たち 第 2 章 古代文明の特質 第 3 章 アジア諸地域の国家と社会 第 4 章 西アジアの帝国と古代ギリシア
2 学期	第 5 章 古代ローマ 第 6 章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生 第 7 章 結びつくユーラシアの諸地域 第 8 章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流（前半）
3 学期	第 8 章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流（後半） 第 9 章 交易の進展と東アジア・東南アジア 第10章 アジア諸地域の再編

何で学ぶか(教材)

山川出版社『詳説世界史』 啓隆社『新世界史要点ノート（応用編）』 （2023年度版） 啓隆社『世界史重要語句Check List』 （2023年度版） 浜島書店『詳説世界史図説』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	地理探究	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	諸問題（災害、エネルギー問題、食料問題、人口など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 自然環境 1. 地形 2. 気候と生態系 3. 世界各地の自然と生活 4. 日本の自然環境と防災
2 学期	第2章 資源と産業 1. 農林水産業 2. 資源・エネルギー 3. 工業 4. 第3次産業 第3章 人・モノ・金のつながり
3 学期	第4章 人口・村落・都市 1. 人口 2. 都市・村落 第5章 文化と国家 1. 生活文化と言語・宗教 2. 国家

何で学ぶか(教材)

地理探究（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名		日本史探究	授業時数	週 3 単位	2 学年
			コース	志学 コース	
目標	歴史的思考力を培うなかで、基礎的な知識を身に付け、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	日本史と地理的条件や世界史との関連性を理解でき、諸資料から情報を適切に調べまとめることができる	歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。	日本史の展開に関わる諸事象を主体的に探究し、多面的・多角的な考察や理解をすることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	日本史の展開に関わる事象の意義や文化などを、比較、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集することができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成するうえで必要な自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	院政と武士の躍進 武家政権の成立 武家社会の成長
3 学期	近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか(教材)

『詳説日本史』（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 4 単位
		コース・学年	志学 コース 2 学年
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。	身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現している。	聞き取った内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、学習した語句や表現を用いて書いたりしようとしている。
	A わかる	新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開を理解し文章を読み取る技能を身に付けている。	レッスンの理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。	質問の意図を理解し、友達付き合いについて、自分の意見を述べたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
	B できる	新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開を理解できる。	各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握できる。	本文内容に関連して、ペアで話し合ったり、学習した語句や表現を用いて書いたりできる。
	C する	新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を音読したり、書いたりする。	本文の内容を簡潔にまとめ、適切なつなぎ表現を用いて話したり書いたりする。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	L1 Leadership in Modern Times L2 The Diversity of Traditional Houses L3 Improving Society with Avatar Robots L4 Approaches to Food Waste
2 学期	L5 Animals as Indispensable Partners L6 An Irish Poet on a Mission L7 Be Free from Gender Bias L8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees
3 学期	L9 Tackling Global Warming L10 Keys to Finding Happiness OL1 The Good, the Bad and the Emmy OL2 The Tales of Ise

何で学ぶか(教材)

BLUE MARBLE English CommunicationⅡ
必携英単語 LEAP
LEAP 活用ノート1, 2, 3

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	論理表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理系
目 標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	A わかる	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B できる	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	C する	英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法		授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	形式主語・無生物主語・自動詞と他動詞 5 文型・使役動詞・知覚動詞 直接話法と間接話法
2 学期	能動態と受動態・助動詞 関係代名詞・関係副詞・副詞・副詞句
3 学期	副詞節・原級・比較級・最上級 部分否定・代名詞

何で学ぶか(教材)

啓林館「Vision Quest English Expression Ⅱ Ace」 数研出版「三訂版 入試必携 英作文」
--

どのように学ぶか(授業方法など)

タブレット教材 グループ学習、ペア学習 個別学習

科目名	数学C	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	新しい数学的な表現方法を学び、数学を活用して考えたり、数学的な考え方に基づいて物事を判断したりできるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを味わうことができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 平面上のベクトル 第 2 章 空間のベクトル
2 学期	第 3 章 複素数平面 第 4 章 式と曲線
3 学期	第 5 章 数学的な表現の工夫 演習

何で学ぶか(教材)

・NEXT 数学C (数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学C	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	新しい数学的な表現方法を学び、数学を活用して考えたり、数学的な考え方に基づいて物事を判断したりできるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 平面上のベクトル 第 2 章 空間のベクトル
2 学期	第 3 章 複素数平面 第 4 章 式と曲線
3 学期	第 5 章 数学的な表現の工夫 演習

何で学ぶか(教材)

・NEXT 数学C (数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，よさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形ができる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	・ 授業 ・ 定期考査 ・ クリアテスト	・ 授業 ・ 定期考査 ・ 提出物	・ 授業 ・ 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数
2 学期	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法
3 学期	数学ⅠAⅡB 問題演習

何で学ぶか(教材)

・ 改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版) ・ チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研出版) ・ プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し，概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを認識し，味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形ができる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数
2 学期	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 2学期期末考査までに数学Ⅱの内容は終了し，それ以降は数学Ⅲ序説の内容に進む。
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版) ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 概念などを自ら論理的に説明できる力まで養うような働きかけを行いたい。
--

科目名	化学基礎	授業時数	週 2 単位		2 学年
		コース	志学	コース	文
目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても、積極的な授業参加がみられ、主体的に活動している。
	A わかる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、それを用いて答えを導き出すことができる。実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し、論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出期限を守り、授業においても、発言・質問をするなど、積極的な授業参加がみられる。
	B できる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をほぼ身につけている。実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出ができ、授業に参加しようとする態度がみられる。
	C する	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を理解し、用語や化学式を適切に用いることができる。	授業を受ける準備ができており、参加しようとする態度がみられる。
評価方法		授業・定期考査・小テスト・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート
評価方法		定期考査 6割 定期考査 20点未満は欠点		授業態度 提出率 3割 協働力
		小テスト 提出物の内容 その他 1割		再三注意しても上記Cが満たされない場合は欠点

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	物質の構成 物質と化学結合
2 学期	物質の変化
3 学期	物質の変化

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学基礎 academia』 数研出版 『四訂版 リードrightノート化学基礎』 実教出版『化学基礎エブリィノート』 演習プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 実験・観察

科目名	地学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることとともに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 惑星としての地球 第6編 宇宙の構成
2 学期	第2編 活動する地球 第4編 移り変わる地球
3 学期	第3編 大気と海洋 第5編 地球の環境

何で学ぶか(教材)

教科書（第一 地学基礎(310)） ワーク（第一 ネオパルノート） 資料集（第一 スクエア最新図説地学）
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 実験，実習 グループ活動 （ポスターセッション等）
--

科目名	化学基礎・化学	授業時数	週 4 単位		2 学年
		コース	志学	コース	理
目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても、積極的な授業参加がみられ、主体的に活動している。
	A わかる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、それを用いて答えを導き出すことができる。実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し、論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出期限を守り、授業においても、発言・質問をするなど、積極的な授業参加がみられる。
	B できる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をほぼ身につけている。実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出ができ、授業に参加しようとする態度がみられる。
	C する	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を理解し、用語や化学式を適切に用いることができる。	授業を受ける準備ができており、参加しようとする態度がみられる。
評価方法		授業・定期考査・小テスト・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート
評価方法		定期考査 6 割 定期考査 20点未満は欠点		授業態度 提出率 3 割 協働力
		小テスト 提出物の内容 その他 1 割		再三注意しても上記Cが満たされない場合は欠点

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	物質の構成（化学基礎） 物質と化学結合（化学基礎） 物質の変化（化学基礎）
2 学期	物質の状態と平衡（化学）
3 学期	物質の変化と平衡（化学） 無機物質（化学）

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学基礎 academia』
実教出版『化学 academia』
実教出版『サイエンスビュー新化学資料』
数研出版『六訂版 リードα 化学基礎＋化学』
演習プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材
実験・観察

科目名	文学国語	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文系	
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	A わかる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を理解するとともに、我が国の言語文化に対する理解する。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけ、他者との関わりの中で伝え合う力をつけ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解するとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	B できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解しようとするとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	C する	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解しようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとする。	生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
評価方法		考查，小テスト	考查，小テスト	授業内

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	感触-世界のリアル ランドセル 途中下車 もののふの心-言葉とコトバ
2 学期	山月記 永訣の朝 自分を解釈してもらおう喜び サーカス
3 学期	日曜日はどこへ 餓鬼道としての詩 こころ 虫のいろいろ

何で学ぶか(教材)

桐原書店『探求 文学国語』 副教材 教科担任作成資料

どのように学ぶか(授業方法など)

講義式授業 アクティブラーニング オンライン授業

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名		保健	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	志学 コース	
目 標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、状況に合わせてしなやかに行動する力を身に付ける。				

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	社会状況や自らの用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康，性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康，避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康，医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康，水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備，食品の安全を守る活動 働くことと健康，働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名	美術 1	授業時数	週 1 単位
コース・学年	志学 コース	2 学年	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけて表している。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション 造形表現その一（彫刻） 造形表現その二（版画） 共同作品 美術作品鑑賞その一
2 学期	絵具の制作と表現（絵画） 造形表現その三（デザイン/彫刻） 期末考査 美術作品鑑賞その二
3 学期	自己と表現の考察 造形表現その四（絵画/彫刻/etc.） 美術作品鑑賞その三

何で学ぶか(教材)

高校生の美術1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、鉛筆、絵具（中学、高校1年次から使用しているものでも可）／各の題材に必要な材料は学期ごとに購入します。
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いたICT授業も行いますので必要に応じて持参してください。
--

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	より高度で幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	S 使える ・打楽器とリコーダーを使ったアンサンブルができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	・グループでイメージを共有し、表現するための技能を身につけることができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
評価	A わかる ・音楽の様々な表現方法を知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティキュレーションをつけた表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
基	B できる ・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・♯や♭のあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
準	C する ・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習
